令和７年度　第１回
函館市縄文遺跡群保存活用協議会会議録（要旨）

開催日時	令和７年９月２９日（月）１０時３０分～１２時００分
開催場所	函館市南茅部総合センター　講堂
議　題	（１）協議事項 ①　協議会の設置要綱改正および委員の委嘱について ②　会長・副会長の選任について （２）報告事項 ①　縄文遺跡群の保存活用 ②　縄文遺跡群の普及啓発 ③　世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和７年度上半期） ④　史跡垣ノ島遺跡の保存活用計画の策定について ⑤　縄文遺跡群の世界遺産文化遺産登録による効果促進施策のあり方の評価・検証 （３）その他
出席委員	熊谷　儀一　会長　佐藤　安浩　副会長　竹内　正幸　委員 大宮トシ子　委員　山田　貴久　委員　谷口　諭　委員 三浦　孝史　委員　鈴木　健二　委員　菅原　学　委員 三浦　信一　委員　佐々木孝比古　委員 （計１１名）
欠席委員	西田　俊一　委員　（計１名）
事務局	教育委員会 生涯学習部長　土生　明弘 文化財課長　木村　元子　文化財課主査　野村　祐一 文化財課主査　吉田　力　文化財課主任主事　横岡　歩 文化財課主事　藤田　真由 南茅部支所 支所長　川口　洋 地域振興課長　宮越　忠 産業建設課長　加我　明夫 観光部 観光総務課長　川崎　耕太 （計１０名）

１　開　会

（事務局）	開会

２　挨　拶

（生涯学習部長）	開催挨拶

３　出席者紹介

（事務局）	協議会委員および事務局紹介

４　議　事

（１）協議事項

①　協議会の設置要綱改正および委員の委嘱について

（事務局）	（資料１）「函館市縄文遺跡群保存活用協議会設置要綱」 （資料１）「　同　　　　　　　　　委員名簿」・「別表」説明

②　会長・副会長の選任について

（事務局） （委員一同） （事務局） （委員一同） （熊谷委員） （事務局） （熊谷会長） （佐藤委員） （事務局）	会長の選任方法について協議 事務局案の提示を求める 熊谷儀一委員（南茅部町内会連絡協議会会長，前函館市縄文遺跡群保存活用協議会会長）を提案 異議なし 了承 熊谷委員を会長に選出 副会長の選任について，会長からの指名を求める 副会長に佐藤委員（一般財団法人道南歴史文化振興財団事務局長）を指名 了承 会長・副会長席への移動を依頼
（熊谷会長） （佐藤副会長）	会長就任挨拶 副会長就任挨拶
（事務局）	今後の進行を会長に依頼

（２）報告事項

①　縄文遺跡群の保存活用

（議長） （事務局）	事務局に説明を指示 （資料２）「令和７年度　事業報告」縄文遺跡群の保存活用　説明
（議長） （各委員）	ただいまの説明について，ご質問等ありますか。 （特になし）

②　縄文遺跡群の普及啓発

（議長）	事務局に説明を指示

(事務局)	（資料２）「令和７年度　事業報告」縄文遺跡群の普及啓発　説明
(山田委員)	今，普及啓発活動について数々ありましたが，やってどうだったか，反響であるとか，来場者数や客層など，もっと今後に向けてやってどうだったかということのお話を頂きたいのですが。
(事務局)	はい。例えば，資料２・５ページ・エ 他団体事業への協力・１－ｂ）「デジタル御朱印企画」というものがありますが，これにつきましては函館に限らず，世界遺産の構成資産を巡り，各構成資産のデジタル御朱印を手に入れるというようなものでございます。デジタル御朱印の収集を目的で世界遺産をまわっている人もいると聞いてございます。 ほかに例えば，資料２・９ページ・エ 他団体事業への協力・９－ａ）縄文 DOHNAN プロジェクトの８月１７日開催「JOMON どうなん発見 in グランディールイチイ」につきましては，縄文体験をいくつか主催者である縄文 DOHNAN プロジェクトが実施されていましたが，どの体験ブースも参加者が途切れることなく実施していたということで，確か５時間ぐらい実施していたがほぼ休みなく，ちょうど夏休みの終わりぐらいの開催日のため，家族連れが多く，このイベントを目的に来場したという家族連れが多かったと聞いております。かなり評判は良かったというふうに聞いてございます。二つほどでございますがそんな感じでございました。
(議長)	はい，ありがとうございます。 山田委員，よろしいですか。
(山田委員)	はい。そうですね。
(議長)	そのほかご質問ございませんか。ないようでございますので私のほうから２点ほど伺いたいと思います。 まず，縄文文化交流センターの館長であります佐藤委員に，土偶が発見されてから５０年経ちました。このことについて実際に現場で，来館者も含めた形の中で，何か変化があるとか，来館者からこういう意見や感想がありましたとか，何かありますか。
(佐藤委員)	事務方の私には非常に厳しいお話しですが，今年は，土偶発見５０年ということで，縄文文化交流センターでパネル展を開催しております。その中で発見されてからの経緯などを説明したパネルがあります。来館者からは，当時の新聞記事などの古い資料を見て，「南茅部町で管理するまでの経緯や背景，町の頑張りが分かり良かったです。」と聞いています。あとは土偶が世界的に色々出品してきて「そういうのがすごいです。」とか，「そういうのが分かった。」とか，土偶の素晴らしさもですが，土偶がたどってきた経過に関して，新聞記事やパネルを見て，「わかりました。」というような意見が，私のほうにはきておりました。
(議長)	はい，ありがとうございました。 来館者の中には色々な見方をしている方もおられると思います。専門的な見方をしている人，純粋に縄文の土偶とか遺跡とはどういうものなのかという形で見に来ている方もおられると思うので，また来館者の方から日々，色々な形のなかで意見など聞い

	ていただければ今後の活動の参考になるのかなと思っていますので，そういうことも含めて，みていただければと思います。ありがとうございます。 　次に今，市内の小学生が縄文文化を学ぶ機会が日々提供されておりますけれども，函館市外の学校について年間どのくらいの修学旅行生が来ているのか，またそのうち函館市に来ている修学旅行生の中で，南茅部地域，縄文センターも含めて，どのくらい南茅部のほうに来ているのか観光部のほうで集約されておりますでしょうか。もし集約されていれば参考にお聞かせいただければと思います。
（事務局）	はい，観光部の川崎と申します。 　観光部では教育旅行，いわゆる修学旅行の全件調査という入れ込みの調査は行ってはいないのですが，市内の宿泊施設や交通事業者の方から数件聞き取りの中での調査というか結果になりますが，令和６年度ですと函館地区，道南，北斗，七飯も含めて修学旅行で来られた学校については４３０件くらいということです。あくまで聞き取ったなかでの数字ですので実際の数字とは少々異なると思いますけども，やや４００，５００弱，令和６年については４００少々ということでございます。 　南茅部のほうに行っているのかの調査については，本当に申し訳ないのですが調査は行っていないのですが，縄文文化交流センターの入場数ですと令和６年度で４２校と伺っております。
（議長）	はい，ありがとうございます。 　佐藤委員，観光部のほうから令和６年度４２校，来館されているという報告ですが４２校だとだいたい何名になるでしょうか。
（佐藤委員）	縄文文化交流センターでは，人数の多い学校はなかなか受け入れも難しいところもありますので。一校当たり平均２０～３０名くらいではないかなと，バス一台分くらいかなと思います。
（議長）	はい。わかりました。
（事務局）	補足をさせていただきますが，さきほど観光部から令和６年度４２校ということでお伝えしていますが，人数は１，８２４人ということになります。以上でございます。
（議長）	はい，ありがとうございます。 　人数的には地域外からそれなりに団体が来てくれているということで年々これは日本全国というと大袈裟になるかもわかりませんが，縄文文化交流センターと国宝展示についてはそれなりに各方面に知れ渡っているということの証でしょうかね。
（事務局）	ありがとうございます。 　縄文遺跡群につきまして，世界遺産ということで函館市のほうでも教育旅行に関する説明会などのなかでＳＤＧｓの観点から非常に教育的にも優れた教材であるといことも含めてご紹介させていただいているところでございます。
（議長）	はい，ありがとうございます。 　今後も多くの来館者が来ていただければありがたいなと思いま

	す。皆様の協力をいただきたいと思います。ありがとうございます。他に質問等ございませんか。 いま啓発活動の報告がございましたが，様々な啓発活動をされております。委員の皆さんの中でこの報告以外に，こういうことがいいのではないかとか，アイディアみたいなものがあったら述べていただきたいと思いますが，ありませんか。いま資料を見た中で，そのほかありませんか。 また，委員の皆さんの所属している各団体の中で，これ以外に啓発活動している，重点的になにかやられている方はおられますか。特別にこういうことをやっていますというのがあれば教えていただければと思いますが，ございませんか。 何かありましたら事務局に言っていただければ採用されるかどうかはわかりませんけど，予算の関係もございますので，いいアイディアがあれば縄文活動の一環となるかと思っていますので，よろしくお願いします。

③　世界遺産の保全にかかる遺産影響評価（令和７年度上半期）

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 （資料３）「世界遺産の保全にかかる遺産影響評価」 （令和７年度上半期）　説明
(議長)	サクラの苗木を２０本植えたとのことですが，今後これ以上増えることはあるのでしょうか。
(事務局)	今年度の植樹をもって史跡内での民間団体による植樹は終わりとなります。
(議長)	はい，わかりました。ありがとうございます。

④　史跡垣ノ島遺跡保存活用計画の策定について

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 （資料４）「史跡垣ノ島遺跡保存活用計画の概要」説明
(議長)	策定期間は，令和８年度３月までということですが，計画ができあがった時点で我々にも提供していただけるということでよろしいですか。
(事務局)	はい。そのように考えている。
(議長)	わかりました。よろしくお願いします。

⑤　縄文遺跡群の世界遺産文化遺産登録による効果促進施策のあり方の評価・検証

(議長) (事務局)	事務局に説明を指示 （資料５）「縄文遺跡群の世界文化遺産登録による効果促進施策のあり方の評価・検証」説明
(議長)	ありがとうございます。ただいま説明いただきましたけど概ねＡ・Ｂが達成できたという評価でございますが，皆さんから何か質問等ございませんか。

	はい，山田委員，お願いします。
（山田委員）	ほとんどの評価がＡとＢとほとんど達成できたという高評価になっていますが，この評価と縄文遺跡群への来訪者数，世界遺産になってから現在にいたるその推移，その数とその推移というのは，これはあっているという認識でいいのでしょうか。こんなものだという認識でいいのでしょうか。
（事務局）	ご質問ありがとうございます。 いまお配りしている資料の効果的促進施策あり方〔参考１〕として，当時作成した各施設の来場者推計というものを立ててございます。その中でほかの類似する世界遺産の資産の来場者実績と比較して，やはり登録後はぐっと入場者数があがり，その後は低減していくといったようなモデルがございまして，こちらの３施設につきましても同様な経過をたどるのだろうという予測をしてございました。 ただ当初予定していなかった予想としてコロナの流行がありまして，それによって登録初年度となった令和３年度は，まだ人の往来が制限されていた時期でございますので，本来ピークとなるはずだった令和３年度が低く抑えられまして，その後だんだん制限が緩和されていったということで，こちらの縄文遺跡については令和４年度がピークとなったというふうに捉えてございます。 その後，令和４年度をピークとして，低減していっているということにはなりますが，これまで行って参りました普及啓発活動など, また史跡の受け入れ態勢の充実といったところなどがあり，一定のところで留まっていると，登録前に比べると高い水準を維持してきているのかなというふうには捉えております。
（山田委員）	承知しました。ありがとうございます。
（佐藤委員）	３年度以降の事業ということで表にしてみますと様々な周知に係わる取り組みですとか，そういったものが行われてきたということが改めてわかった表です。 ここまで教育委員会や支所また関係する各種団体の皆さんのご協力もあって進んできているのかなということで，ある程度評価されたというというのも納得したところでございます。 これからも情報発信や保存活用というものは継続されて進んでいってくれればいいなというようなところで，また私たちも一生懸命やっていく励みにもなりますし，ぜひ進めていただければというふうに思っております。以上，意見でございます。
（議長）	はい，よろしくお願いします。 確認ですが, 資料５の３ページの評価のなかで,「駐車場の確保」の民地の駐車場は令和７年５月で契約満了なのでしょうか。駐車場の管理は令和７年５月までという認識でよかったでしょうか。今後新たに契約しなおすことはないのですか。
（事務局）	はい。これは縄文文化交流センター向かいの民地を臨時駐車場として確保するということですが, こちらは市での契約ではなく，道南歴史文化振興財団のほうで確保されていた状況でございまし

	た。今現在は本来の道の駅の駐車場の台数確保状況からいったん契約というか借上げは終了している状態ですが，今後も入場者数の推移など実際に使用されている状況を見ながら駐車場の確保を必要であれば行っていきたいと考えております。以上です。
（議長）	できればその都度，借上げするよりも教育委員会でその近くの場所を買ったほうが早いですよね。どうですか。予算的には無理なのでしょうか。
（事務局）	ただいま申し上げましたとおり，駐車場の使用の実態などを踏まえまして，必要があれば確保したいというふうに考えております。
（議長）	はい，よろしくお願いします。 資料５の１ページ「発掘調査現場の公開」について，現在は実施してないということで無しになっていますよね。無しなのにＣという評価をされています。周辺の遺跡で実施と記載していますが，今後，この周辺の遺跡はどこら辺を予定しているのか予定してないのか，その点と今後発掘現場の公開を実施するのかどうなのかをお願いします。
（事務局）	遺跡の発掘調査の公開についてですが，これまで大船Ｇ遺跡など公開している部分の発掘につきましては公共事業に伴いまして，バイパスや臼尻の臨港道路の建設に伴って発掘調査を行ったものになっておりまして，現在のところ，引き続いて地域で予定されているものはないところです。 また，説明でもありましたが大船・垣ノ島遺跡につきましては，すでに史跡指定がされている遺跡になりますので，なかなかそこで新たな発掘調査を行うことはハードルが高いものがございますが，今後，史跡の整備にあたりまして整備工事に伴ってまた発掘調査をするという可能性はあるのかなと考えております。 もしそのようなことになりましたらぜひ市民の皆様にもそういった発掘調査の状況を見ていただいて遺跡のことを深く知っていただければなというふうに考えております。
（議長）	発掘調査は，色々なところで調査が行われておりまして，現場に一般の人たちが立ち入ることがいいのかどうなのかという問題がありますが，私はどちらかというと，立ち入るべきではないという思いがあるのですが，こういう項目が載っている以上はなんとしても実施しないといけないのかどうかというところですけれども，いかがですか。
（事務局）	もちろんですね，発掘調査ということが主眼になりますので，調査もしくは公共事業に伴う場合ですと，工期に影響を与えないようにですとか，そういったところは影響が生じないようにやっていくべきものだとは考えております。ただ中々一般の方にとっては見る機会の少ないものではございますので，色々調整をした中でご覧いただける場合で，もし見ていただけるならそれはとてもいい機会になるかなと考えておりました。
（議長）	はい，わかりました。ありがとうございます。そのほかござい

	ませんか。ないようですので，このあり方について今後どのように取り扱うのか事務局から教えていただければと思います。
(事務局)	このあり方に基づきまして５年間に実施した取り組みについて評価ということで皆様にもご覧いただきまして受け止めていただきありがとうございます。ご意見もいただきましたので，内容を反映させて取りまとめまして，そののち会長，副会長に確認をしていただき，その後，教育委員会の定例会に報告をしたいと考えております。
(議長)	ありがとうございます。今後の評価については５年ごとに評価をしていくとそういうことでございますね。
(事務局)	あり方についてですが，令和６年度までの評価ということで区切りをつけさせていただくこととなります。ただここに書かれている施策につきましては，引き続き効果促進施策ということで効果を最大化する，世界遺産登録の効果を最大化するということについては引き続き取り組みとしては進めてまいります。
(議長)	はい，わかりました。 ただいま事務局から説明がありましたが，今後の評価検証につきましては，皆さんからいただいたご意見を踏まえて教育委員会に報告してもらうということでお願いいたします。
(事務局)	今回，報告事項のなかで普及啓発に係りまして熊谷会長から皆さまが所属されている団体などでの取り組みなどについて，投げかけがございました。 事務局といたしましても普及啓発活動につきましては，質量とも充実をさせたいと思っております。一緒にできる取り組みですとか，こういった取り組みをやったらどうだろうなど，ございましたら，ぜひお声がけいただければと存じます。 また山田委員の方から，協議会の場での報告のあり方について，どのような状況であったか，反響であるとか参加された方の客層であるとかについてお話がありましたので，次回のご報告からそのあたりを工夫して報告させていただきたいと思います。

（３）その他

(事務局)	事務局から下記２点を説明。 １）垣ノ島遺跡 ２）次回の開催時期（来年２月もしくは３月を予定）
(議長) (各委員) (議長) (各委員)	ただいまの説明について，ご質問等ありますか。 (特になし) それでは，最後，通しでご質問等ありますか。 (特になし)

５　閉　会

(事務局)	閉会

（了）